

れます。今後も地域の皆さまの要望を伺いながら整備を進め、安全・安心なまちづくりを進めていきます。

登下校時のため、市民バスの本数を増やすことは可能でしょうか



千葉 響 君
(石越中・2年)

市民バスの本数について質問します。

石越中には、町外から登下校をしている生徒が数人います。また、石越中を卒業した先輩方の多くは、若柳方面や迫方面の高校に進学しています。

それらの皆さんの主な交通手段は市民バスか自転車になります。登下校時は車の交通量も増え、下校時は日が沈んでいて事故の危険性が増します。

このことから、私としては市民バスの使用が最も安全な交通手段だと考えています。しかし、石越町経由の若柳方面や迫方面への市民バスの本数を見ると、あまり本数が多いとは言えないと思います。

石越中学生や石越中を卒業した先輩方の安全のためにも、登下校時の市民バスの本数を増やすことは可能でしょうか。

石越中学生や石越中を卒業した先輩方の安全のためにも、登下校時の市民バスの本数を増やすことは可能でしょうか。

【答】市民バスについては、宮交登米バスの路線廃止に伴い、平成17年10月からの施行運転期間を経て、平成19年4月から運賃100円のワンコインバスとして本格運行を開始しました。

市民バスの利用者数ですが、ワンコインバスとして運行する前の平成16年度は約11万8千人でした。それが平成25年度には約34万2千人と約3倍に増えました。現在は、通勤、通学、通院や買い物など市民の生活を支える重要な公共交通となっております。

「登下校時の市民バスの本数を増やすことは可能でしょうか」とのご質問です。市民バスの利用者負担は100円ですが、市から多額の委託料を支払い、運行を維持している状況です。多くの市民から

しかし、私たちは被災した生徒とは交流していても、他の被災者の方との交流はあまりありません。それは、仮設住宅のある他の町にも言えることではないでしょうか。

私は今、被災者に必要なことは、多くの人々との交流、メンタルケアだと思います。登米市では、被災者との交流を図った行事や呼び掛けは、どのように行っていますか。

【答】仮設住宅の皆さまとの交流は、地域のコミュニティ組織や自主団体などで数多く行われています。

いくつか紹介しますと、津山地域では、地域の運動会に仮設住宅を一つの自治会として参加していただいています。また、地区コミュニティ推進協議会で開催する盆おどりや地区住民が開催するさまざまなイベントに仮設住宅の皆さまを招待して、楽しんでいただきながら交流を深めています。

南方地域でも「協働のまちづくり地域交付金事業」を活用した事業として、東郷地区住民とイオン南方跡地の仮設住宅の皆さまが、はっと汁を作って食べたり地域文化を互いに紹介したりと、食と文

化を通じた交流や、仮設住宅周辺のクリーン作戦などが行われたところです。

地域の自主サークルの中には、仮設住宅の皆さまを対象とした「傾聴の会」を定期的に開催し、仮設住宅で生活する上での悩みや不安に耳を傾け、安心した生活を送ることができるよう活動している団体もあります。

さらに、登米市社会福祉協議会と登米市ボランティア協会では、お茶のみサロン「あがりっしえ」を4カ所の仮設住宅で定期的に開催し、支え合い活動や自治会組織の拡充を支援しています。そのほか、健康相談なども行い、住民との交流を図っているところです。



議長の大使に聴せず、堂々と議事を進めた南方中の井林君(左)



生徒たちの真つすくな思いを受け止め答弁した布施市長(中央)

子ども議員

学校	氏名	性別	学年	質問事項
佐沼中	河原 花歩	女	2	防犯について登米市のいいところ
佐沼中	鈴木 天音	女	2	登米市のパチンコ店
新田中	堺 紀人	男	2	経済と高齢化
新田中	但木 大介	男	2	病院について
登米中	大槻 圭	男	2	登米市の若者定住化
登米中	野村 亮太	男	2	登米市の防災訓練
東和中	佐藤 生	男	3	今後の農業への取り組み
東和中	武田 東子	女	3	登米市の人口減少に伴う問題
中田中	今野 光貴	男	2	自然災害時の補償
中田中	佐藤 有	男	2	交通安全と就職
豊里中	及川 和哉	男	2	通学路の道路状況
豊里中	高橋 陽菜	女	2	24年度子ども議会質問事項の回答
米山中	佐竹 ことみ	女	3	街灯について中学校間の交流
米山中	杉澤 賢弥	男	3	登米市の観光アピール
石越中	石川 愛那	女	2	石越町の街灯と歩道の本数
石越中	千葉 響	男	2	市民バスの本数
南方中	井林 洸太	男	3	公共施設の利用部活動時のケガの対応
南方中	遠藤 瑠也	男	2	バスの交通の便登米市で少ないと思うもの
津山中	大内 一真	男	3	仮設住宅の住民との交流
津山中	橋 生路	女	3	林業の維持・活性化

仮設住宅の住民との交流や呼び掛けは、どう行っていますか



大内 一真 君
(津山中・3年)

仮設住宅の住民との交流に

本数の増加、運行範囲を広げてほしいなどの要望をいただいていることが、全ての要望に応えることは困難な状況にあります。

通勤、通学、通院や買い物で利用者のニーズがあり特に利用者が多くいる場合などは、

運行時間帯や本数を見直し、効率よく運行していきます。

ご質問の登下校の時間帯については、朝1便と部活動に対応するよう夕方2便を運行し、生徒の皆さんの安全な通学手段の確保に努めています。

私が住んでいる津山町には4カ所の仮設住宅があります。そのため、被災者として転校してきた生徒もいます。が、楽しく学校生活を送っており、精神的なケアはできていると思います。

子ども議会 2014



子ども議会終了後に関係者と。生徒たちにとっては、大きな経験になったことでしょう